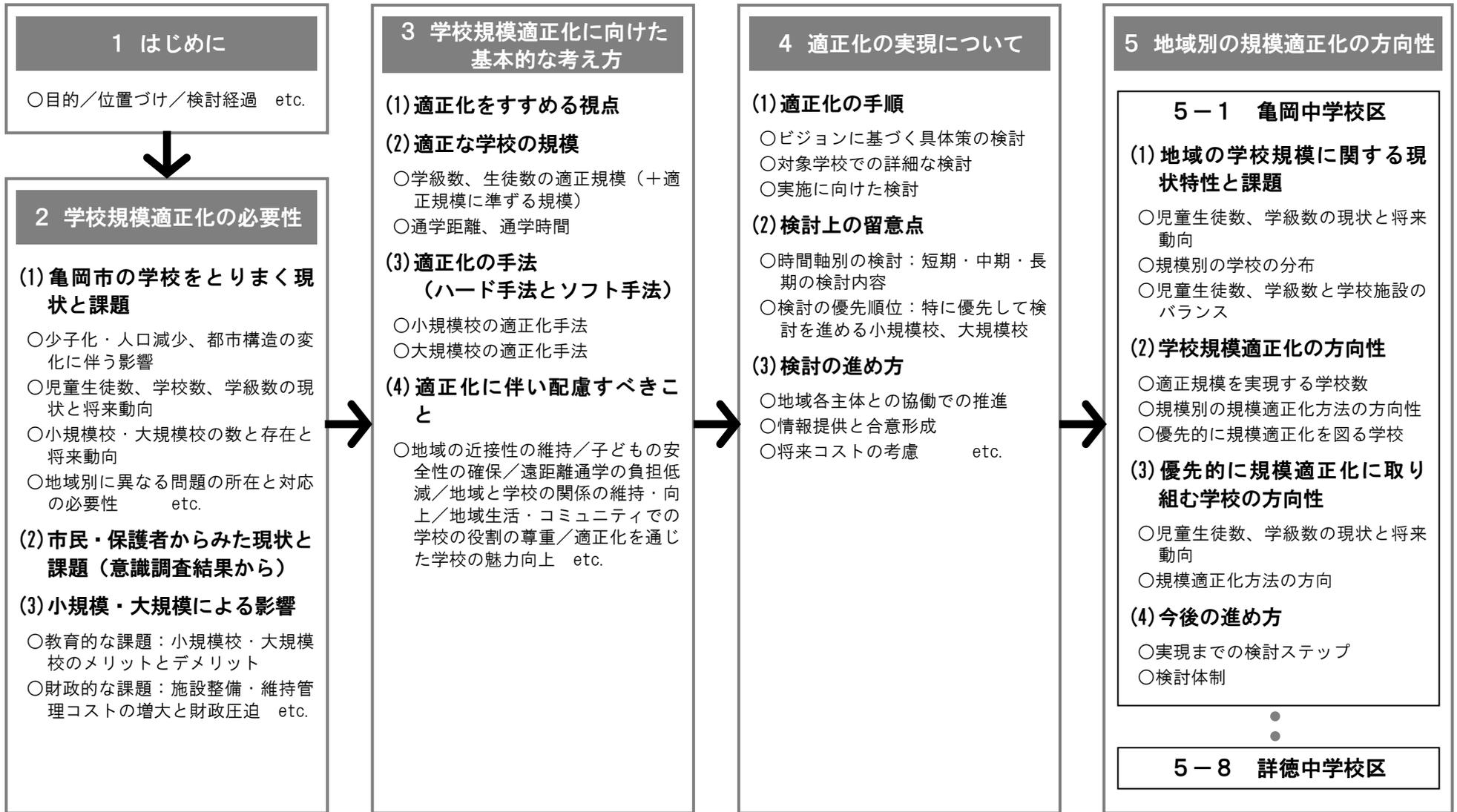


中学校区別の適正化の方向性について

亀岡市学校規模適正化検討会議提言の構成・内容イメージ



<基本提言部分>

亀岡市の学校教育環境を維持・向上させるための適正な学校規模及び適正化の方法についての考え方、基準、方法を示し、具体化に向けた検討の基本とするもの

<地域別ビジョン部分>

基本提言を踏まえ、8地域別の学校規模に関わる現状と課題と適正化の方向性を示したもの。地域でこのビジョンを基本として、個別学校における具体的な取組方策の検討を進めるものとする

適正化検討の優先順位

学んでいる子どもたちの教育環境を第一優先に考え、学校規模の適正化を図る。

優先度①

- 【小規模校】 複式学級のある学校
(東別院小学校、西別院小学校、保津小学校)
- 【大規模校】 教室不足の学校
(安詳小学校)

優先度②

- 【小規模校】 今後複式学級となる可能性が高い学校
＜全学年単学級の学校＞
(吉川小学校、本梅小学校、畑野小学校、青野小学校)

優先度③

- 近い将来、増減が見込まれる学校
(大幅な児童の増減が見込まれた時点での対応について)

時間軸別の検討

短期

中期

長期

亀岡市の子どもを増やす諸施策(全市的な取り組み)

複式学級の学校

- ・統廃合
- ・特認校
- ・学校区の見直しや通学区域の弾力的運用

- ・学校の増改築
- ・小中一貫校による増改築や新設

複式学級が見込まれる学校

- ・統廃合
- ・学校区の見直しや通学区域の弾力的運用
- ・小中一貫校による増改築や新設

将来、大幅な増減が見込まれる学校

- ・見込まれた時点で、学校区の見直しや通学区域の弾力的運用

教室不足の学校

- ・学校区の見直しや通学区域の弾力的運用

- ・学校の増改築や分離新設の検討

～H30年

～H33年

小規模校

大規模校

市域が広く、地域ごとに学校の置かれている状況が大きく異なっているため、一定の地域のまとまりとして中学校区ごとに検討する。

その際には、「子どもたちにとって望ましい教育環境」の視点で、下記についても併せて検討する。

○学校を統合した場合に生じる課題への対応

- ・通学の安全安心のためのスクールバスの利用
- ・スクールバスによる体力低下への対応
- ・廃校校舎の地域拠点としての活用
- ・施設整備の充実

○学校の校区を変更した場合に生じる課題への対応

- ・通学の安全安心のためのスクールバスの利用
- ・通学距離の基準(小学校:4km以内、中学校:6km以内)に加えて、通学時間の基準(1時間以内で)を設定する。
- ・地域(自治会)との繋がり

○小規模校を存続させる場合に生じる課題への対応

- ・小規模校間のネットワークの構築、合同授業
- ・地域の文化自然を活かしたカリキュラム
- ・地域(自治会)との繋がり
- ・住宅が増えても、子どもが生まれて小学校へ通うまで5年以上かかるため、それまでの対応

地域別の規模適正化の検討

※各学校の児童数および学級数は、平成27年5月1日現在

◎校区内小学校

亀岡小学校

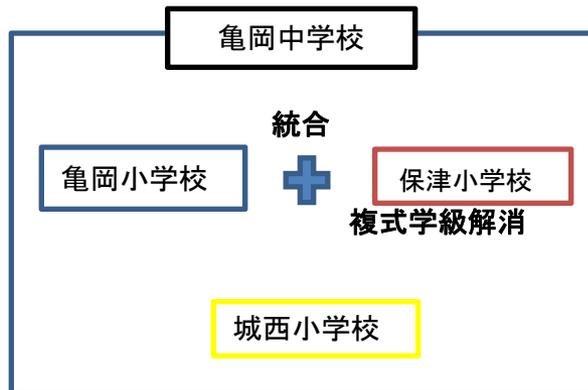
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
児童数	94	101	94	80	96	86
学級数	3	3	3	3	3	3

保津小学校

学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
児童数	8	5	5	9	6	14
学級数	1	1		1	1	1

城西小学校

学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
児童数	57	52	54	68	50	81
学級数	2	2	2	2	2	3



現状と課題

- ①保津小学校に複式学級があり、今後も増加の見込みが小さい。
- ②亀岡小学校、城西小学校、つつじヶ丘小学校と自治会区域との整合性が図れていない。

適正化の方向性

- ①保津小学校の複式学級の解消
- ②校区の見直し(亀岡小学校、城西小学校、つつじヶ丘小学校)

適正化の選択肢

- ①保津小学校の亀岡小学校への統合
- ②通学区の弾力的運用
(希望者はバスで川東小学校へも選択可)
- ③校区の見直し

◎校区内小学校

東別院小学校

学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
児童数	2	6	3	4	5	4
学級数	1	1		1		1

西別院小学校

学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
児童数	3	3	0	6	7	2
学級数	1		0	1	1	1

現状と課題

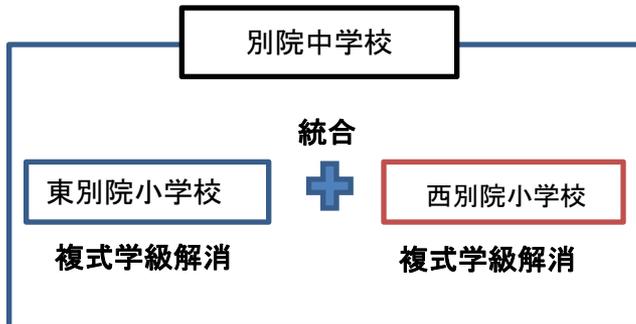
- ①東別院小学校、西別院小学校とも複式学級があり、今後も増加の見込みが小さい。

適正化の方向性

- ①東別院小学校、西別院小学校の複式学級の解消

適正化の選択肢

- ①東別院小学校と西別院小学校を統合
⇒統合しても単学級(クラス替えができない)
- ②小中一貫校
- ③特認校制度
- ④通学区域の弾力的運用
(希望者はバスで曾我部小学校へ選択可)



◎校区内小学校

曾我部小学校

学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
児童数	24	29	23	31	31	35
学級数	1	1	1	1	1	1

吉川小学校

学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
児童数	8	7	7	13	9	8
学級数	1	1	1	1	1	1

蕨田野小学校

学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
児童数	19	11	21	15	25	16
学級数	1	1	1	1	1	1

大井小学校の一部 (児童数、学級数は学校全体の数)

学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
児童数	84	84	77	61	81	71
学級数	3	3	3	2	3	2

現状と課題

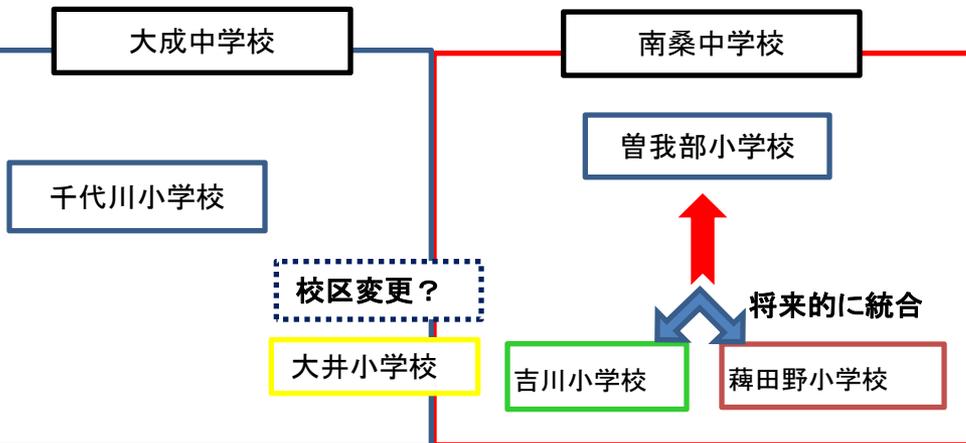
- ① 蕨田野小学校、吉川小学校、曾我部小学校でクラス替えができない。
- ② 吉川小学校では、今後複式学級になる可能性が高い

適正化の方向性

- ① 複式学級にならないよう対応

適正化の選択肢

- ① 蕨田野小学校、吉川小学校を統合
- ② 蕨吉統合校を曾我部小学校に統合 (将来的に)
- ③ 南桑中学校と小中一貫校として運営



◎校区内小学校

本梅小学校

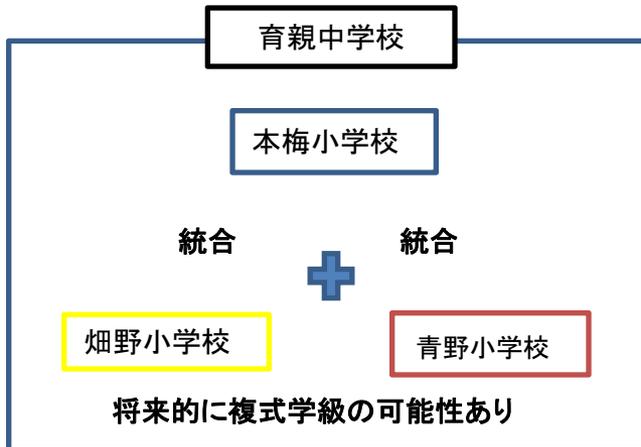
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
児童数	11	11	9	5	16	17
学級数	1	1	1	1	1	1

畑野小学校

学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
児童数	9	9	7	9	10	9
学級数	1	1	1	1	1	1

青野小学校

学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
児童数	14	7	10	17	11	10
学級数	1	1	1	1	1	1



現状と課題

- ①3小学校とも児童数減少
⇒今後複式学級ができる可能性が高い

適正化の方向性

- ①複式学級にならないよう対応

適正化の選択肢

- ①3小学校をひとつに統合
- ②育親中学校と小中一貫校として運営

◎校区内小学校

川東小学校(施設一体型小中一貫校)

学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
児童数	26	26	26	28	24	34
学級数	1	1	1	1	1	1

現状と課題

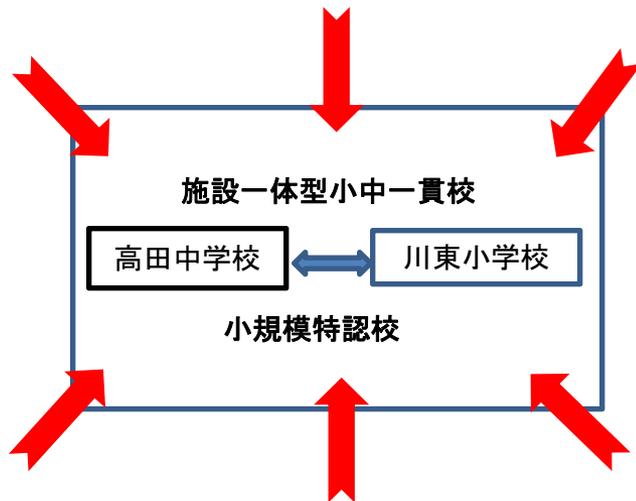
- ①児童生徒数の減少見込み

適正化の方向性

- ①市内唯一の施設一体型小中一貫校の特性を活かして、児童生徒を集める。

適正化の選択肢

- ①特認校とし、市内全域から一定数通えるようにする。



◎校区内小学校

安詳小学校の一部(児童数、学級数は学校全体の数)

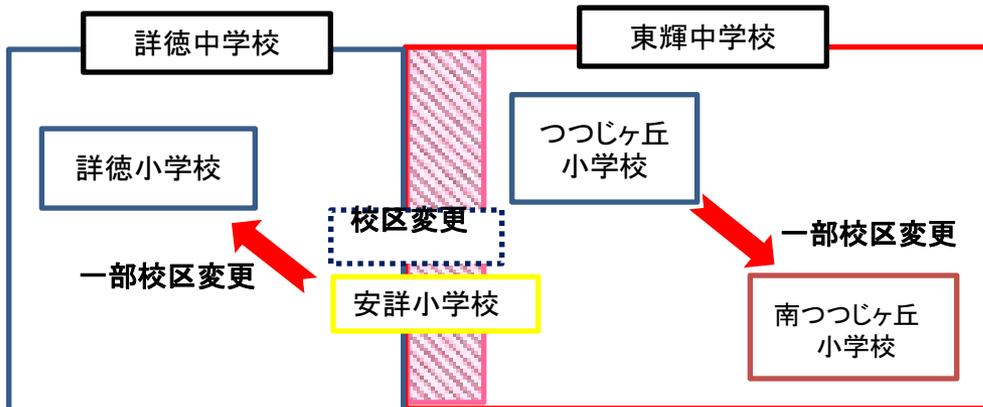
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
児童数	161	145	139	136	124	138
学級数	5	5	4	4	4	4

つつじヶ丘小学校

学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
児童数	109	129	117	137	114	137
学級数	4	4	4	4	4	4

南つつじヶ丘小学校

学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
児童数	57	71	60	62	72	70
学級数	2	2	2	2	3	3



現状と課題

- ①南つつじヶ丘小学校の児童数減少
- ②つつじヶ丘小学校と南つつじヶ丘小学校で校区と通学距離のバランスが取れていない。
- ③安詳小学校の児童数増加により、東輝中学校児童数増加

適正化の方向性

- ①つつじヶ丘小学校と南つつじヶ丘小学校で児童数および通学距離のバランスをとる。

適正化の選択肢

- ①つつじヶ丘小学校と南つつじヶ丘小学校の校区見直し
- ②東輝中学校と詳徳中学校の校区見直し

◎校区内小学校

大井小学校

学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
児童数	84	84	77	61	81	71
学級数	3	3	3	2	3	2

千代川小学校

学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
児童数	90	81	78	89	78	92
学級数	3	3	3	3	3	3

現状と課題

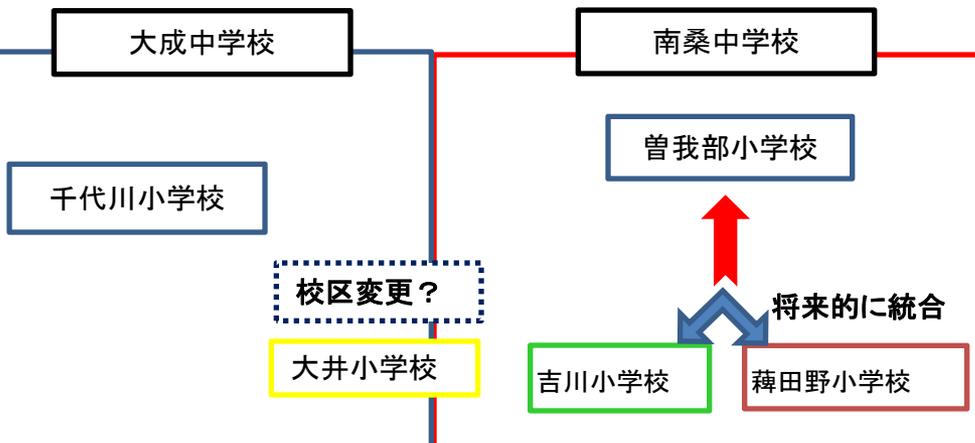
- ①大井小学校の児童が、大成中学校と南桑中学校に分かれて進学すること

適正化の方向性

- ①小中一貫教育を進める上で、できる限り、同じ中学校へ進学するようにする。

適正化の選択肢

- ①大井小学校の校区変更



◎校区内小学校

安詳小学校

学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
児童数	161	145	139	136	124	138
学級数	5	5	4	4	4	4

詳徳小学校

学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
児童数	39	45	50	41	47	33
学級数	2	2	2	2	2	1

現状と課題

- ①安詳小学校児童数が増加し、詳徳小学校との児童数がアンバランス
- ②東輝中学校と詳徳中学校の生徒数がアンバランス

適正化の方向性

- ①小中一貫教育を進める上で、できる限り、同じ中学校へ進学するようにする。
- ②安詳小学校と詳徳小学校で児童のバランスを図る

適正化の選択肢

- ①安詳小学校と詳徳小学校の校区見直し（詳徳小学校から4km以内で安詳小学校校区の一部を校区選択制区域に設定する）
- ②東輝中学校と詳徳中学校の校区見直し（校区選択制区域を設定する）

